

令和6年
7月号

みみょう幼稚園だより

<http://mimyo.org/youchien/>



水あそびシーズン到来

6月17日は、プール開きでした。幼児さんは、みんなでホールに集まって、水あそびをする時のお約束をしました。準備運動は、ラジオ体操第一です。お手本の熊本先生を見ながら、年少さんも音楽に合わせて楽しく真剣に全身を動かしていました。

水あそびには無限の楽しさや学びがあります。感触あそびは成長過程において必須なのですが、特にこの時期は、園庭や屋上で水あそびや泥んこあそびを思い切りすることで、体温調整や皮膚感覚をはじめ運動機能、バランス感覚などの身体機能の発達を促していきます。また、水の性質、水の流れや砂山や泥の浸食など、自然や科学的な気づきにもつながっていきます。絵の具や色水を使ってダイナミックに遊ぶ時間もたくさんつくります。乳児組の先生たちも、泡や氷、寒天など、様々な素材を用意しています。感性も知恵も身体も豊かに育っていくように、1年間を通して、子どもたちの五感をしっかりと刺激していきます。

プール開きを前に、年長さんはペットボトルで船づくりに取り組みました。

今日は、いよいよ進水式です。集中！ドキドキしながら、プールに浮かべてみました。大成功！みんなにこにこ笑顔です。

…遊ぶうちにばらばらになってしまいました。さあ、この次はどんな工夫をしてくれるのでしょうか？さっそくサークルタイムが開かれました。子どもたちのこれからの活躍に期待は膨らみます。



おどろき！ 発見！のある毎日に

感触あそびもそうなのですが、おどろきや発見によって心が大きく揺さぶられることは、成長発達の上で、とても重要なことです。いくつになっても、誰の心にも、小さな頃に強く感じた記憶が残っていると思います。また、そこにはその気持ちを一緒に分かちあった家族や友だちの存在も必ずあることでしょう。悲しいことや辛かったことも含めて、そうした出会いや出来事の一つひとつが、感性や思考力、その人の価値観を形成していきます。

昨年も紹介しました、「センス・オブ・ワンダー（レイチェル・カーン著）」の一説です。**「子どもたちが会おう事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、様々な情緒や豊かな感受性は、この種子を育む肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐み、賞賛や愛情などの様々な形の感情がひとたび呼び覚まされると、次はその対象となるものについてもっと知りたいと思うようになります。そのようにして見つけ出した知識は、しっかりと身につきます。…」**

毎日の幼稚園生活のそこそこに、感動の瞬間があり、知識の種子がしっかりと育まれるように、教育環境や内容の検討改善を積み重ねています。



☀暑さ対策のため、水分補給に併せて適宜子どもたちに食べてもらっているレモンゼリーです。その他、「熱中症指数計」も園庭や屋上に設置しています。

丁寧な視診や検温なども、常に心がけながら、暑い夏を子どもたちと一緒に、元気に乗り切っていきたいと思います。